



平成 26 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社フェヴリナホールディングス
代表者名 代表取締役社長 神代 亜紀
(コード番号 3726 東証マザーズ)
問合せ先 経営企画室長 山戸 明仁
(TEL. 092-720-5460)

「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日発表の平成 26 年 9 月期決算短信において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消することといたしましたので、お知らせいたします。

記

当社グループは、前連結会計年度まで継続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業キャッシュ・フローもマイナスであったことから、「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。

当該状況を解消すべく、当社の連結子会社である株式会社フェヴリナにおいては、中期事業計画を策定し、営業力の強化による売上の回復を目指すため、カスタマーフレンド（販売担当者）の応対力向上のための研修の強化や効率性を重視したプロモーション活動などの施策を行ってまいりました。

当社におきましても、コア事業である化粧品及び健康食品等の通信販売業に注力するため、平成 26 年 3 月 14 日に当社の持分法適用関連会社であった株式会社ソフトエナジーホールディングスの全ての株式を売却し、同年 6 月 1 日付で当社を株式交換完全親会社、株式会社サイエンスボーテを株式交換完全子会社とする株式交換を実施しました。かかるグループ再編により経営資源の選択と集中を図り、コア事業である化粧品及び健康食品等の通信販売事業において、競争優位性を確立し、将来にわたって成長を続けるための体制を構築してまいりました。

その結果、当連結会計年度において、営業利益 51,205 千円、経常利益 58,051 千円及び当期純利益 296,362 千円を計上するにいたりました。また、本日発表の平成 26 年 9 月期決算短信に記載のとおり、平成 27 年 9 月期の業績予想につきましても、引き続き黒字を見込んでおります。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消することといたしました。

株主をはじめとするステークホルダーの皆様には大変ご心配をお掛けしましたが、当社グループは更なる業績向上と企業価値の増大に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上